

Plan ②

4月「言葉のスケッチ」 目的・ねらいの共通理解

平成25年度 飯田小学校「言語の力」の育成の取組み

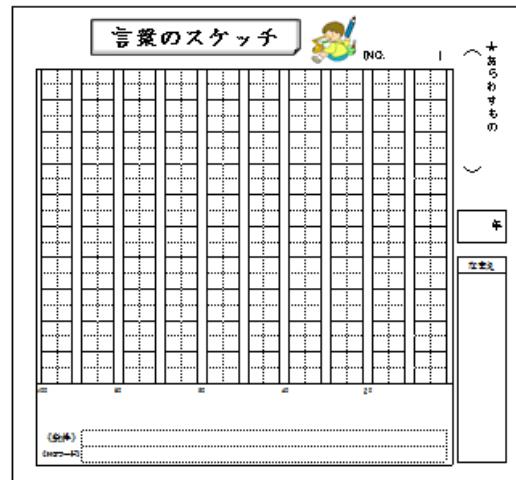
—「言葉のスケッチ」の取り組み—

「今日、給食で食べたリンゴを知らない友達にわかりやすく100文字以内で説明してください。」

「目に見える春、目に見えない春を様々な言葉を使って、100文字以内に表現してみて下さい。」

日常生活にある様々な素材が登場します。

答えは一つではありません。問われているのは、あなたがどういう言葉を使って表現し、相手に思いや考え方をわかりやすく伝えられるかということです。



1 目的

五感を働かせて物事を言葉で表現させることで、言葉に関する興味関心を持ち、子ども達の感性と語彙を豊かにし、表現力や言語感覚を高めることをねらいとする。

これまで、既習を生かして活用する活動を多く取り入れてきた。この「言葉のスケッチ」は、国語の時間の既習を生かすだけでなく、自らが表現したい言葉を見つけ出す意欲と、言葉や読書、国語辞書への関心を高め、自ら言葉の活用力をつけていくようにする。

また、継続的な取り組みによって、書き表すことへの抵抗感をなくすとともに、全学年で書き表した「言葉のスケッチ」を交流することで、表現の違いや言葉のよさを味わい、ものの見方、考え方、表現の仕方を豊かにしていく。

2 時間設定

毎週水曜日のスキルタイムに実施する。活用力タイムの時は、10分間交流を行う。

①はじめの2分・・・考える時間（課題設定・構成）

（鉛筆を持たずに書こうとする内容を頭の中で構想していきます）

②なかの5分・・・書く時間（記述）

（考えたことをもとに書いていきます。時間が来たら途中でもストップします）

③おわりの3分・・・まとめの時間（推敲）

（文章を読み返す。間違いを正したり、より良い表現に書き直したりする。）

3 書かせる条件

①テーマを設定し、自分の考えが相手に伝わるように書く。（1年生は、4・5月は話す表現）

②80字～100字以内とする。（低学年80字・中学年90字・高学年100字）

③年間計画に従って、学年に応じて条件を付加する。

（3文で書け・指示語（これは）接続語（次に、なぜかというと）・NGワードなど）

④習った漢字は使うこと、丁寧に書くことする。

Plan ②

4月「言葉のスケッチ」 実施への共通のイメージづくり

4 評価

何文字書けたか、いくつ漢字を使ったか、多面的な視点から表現できたか、語彙の広がり（辞書や読書を生かす）など、自分の成長を見比べながら楽しく表現する力を伸ばしていくよう評価する。

5 テーマの設定

五感を使って、豊かに表現できる素材や題材を選ぶ。→しっかりと物を見る目も育てる。

【書かせる際の条件】 … 国語系統表から、適時、学年に応じたものを取り入れる。

第1週…全校同じ共通テーマ 第2~4週…学年に応じた学年テーマ とする。

(例)

月	4月	5月	6月	7月
テーマ	㊀「目覚まし時計」	㊀「くも」	㊀「うめぼし」	㊀「灯篭まつり」
	㊁さくら	㊁	㊁	㊁
	㊁ぬいぐるみ	㊁	㊁	㊁
	㊁本	㊁	㊁	㊁
条件	五感を働かせて書く ふたつを比べて書く	比喩「○○のような」 を入れる。	NGワード「すっぱい」	NGワード「楽しい」
月	8月	9月	10月	11月
テーマ	㊀「冷蔵庫」	㊀「見つけた秋」	㊀「ズック」	㊀「マラソン大会」
	㊁	㊁	㊁	㊁
	㊁	㊁	㊁	㊁
	㊁	㊁	㊁	㊁
条件	「このように」結論 になる1文を入れる		ズックになったつも りで書く	「ところが」を入れる
月	12月	1月	2月	3月
テーマ	㊀「こおり」	㊀「おもち」	㊀「春を見つけた」	㊀「卒業」
	㊁	㊁	㊁	㊁
	㊁	㊁	㊁	㊁
	㊁	㊁	㊁	㊁
条件		擬人法を入れる 「おもちのおなかがふくらんだ。」	目に見える春・目に見 えない春を入れる	倒置法を入れる 「○○した6年生」

6 交流

- (1) すべての学年の書いたものを1階職員室横の廊下のファイルに綴じて保存しながら掲示する。
- (2) 活用力タイムの日は、学級で書いたものを発表する。
- (3) 給食の時間に、学年テーマはクイズ形式でテーマを伏せて全校に紹介して、多面的な見方や表現の仕方に着目させ、その素材や情景がよりよく分かる効果的な表現を味わう交流を行う。



飯田 太郎

Plan②

4月「言葉のスケッチ」 実施への共通のイメージづくり

7 国語科における「書くこと」の身に付けさせたい内容

項目		書くことの身につけたい内容
低学年	課題取材	○経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材の必要な事柄を集めている。
	構成	○文章の組立を考えながら、順序よく書いている。
	記述	○主語と述語の関係に注意して書いている。 ○「は」「を」「へ」の使い方に気をつけて書いている。 ○音やようすを表すことばを使える。「バリバリ」「ひらひら」 ○詳しく表す言葉、指し示す言葉が使える。「大きい」「この」「その」 ○語と語や文と文の続き方を考え、つながりのある文や文章を書いている。
中学生年	課題取材	○関心のあることなどから書くことを決め、書く上で必要な事柄を集めている。 ○辞書などを使って、
	構成	○連接(累加・並列)や配列関係(具体的な事柄と抽象的な事柄、結論とその理由や根拠)などの段落相互の関係に注意して書いている。
	記述	○中心(一番つたえたいこと)を考えて、書いている。 ○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使っている。 ○紹介することを一つ一つまとめて書いている。「第一に」「第二に」 ○原因や理由などを挙げたり、分かりやすく説明するために事例など挙げたりしている。 ○修飾と被修飾との関係などを理解して書いている。
高学年	課題取材	○書く事柄を収集し、全体を見通して、書く事柄を整理している。
	構成	○自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えている。 (書き出しに読み手の関心を喚起する事例の配慮) (統括する内容の位置づけの工夫…頭括型・尾括型など)
	記述	○事実と感想、意見を区別し、それぞれの記述の仕方について工夫している。 ○文や文章には、いろいろな構成があることを理解して、書いている。 ○優れた表現を模範にして、書いている。 ○文のつながり（このように・さらに・けれども）や組み合わせの言葉（せまくるしい・持ち運ぶ・近寄る）などを使って書いている。 ○比喩や反復・倒置・引用・慣用句・ことわざなどを取り入れて、表現の工夫をしている。

事実と意見 … 「目覚まし時計は、時間が来ると音が出る。」事実「私はその音が大嫌いだ」意見

比喩表現 … 「雪のような〇〇」 擬人法 … 「星がまばたきして、きれい。」

倒置法 … 「力いっぱい引いている友達。」 列 構 … 「一つ目は〇〇。二つ目は〇〇。」

《物事や考えをつなぐときに使う言葉》（国語4年上教科書より）

- 事柄を順番に言う時 … 「初めに 次に 最後に」
- 追加する時 … 「それから また さらに」
- 例示する時 … 「例えば 例をあげると」
- 前を受け、結論を言う時 … 「だから このように このことから」
- 前の事柄と対比することを言う時 … 「いっぽう これに対して 反対に」
- 前の事柄を原因・理由とする事柄が次に来る時 … 「すると そして それに」
- 前の事柄と逆になる事柄が次に来る時 … 「しかし けれども ところが」
- 理由を言う時 … 「なぜかというと わけは 理由は」



言葉のスケッチの中に、これらの表現が出てくるように条件を工夫。また、交流でこれらの表現文章を紹介

Do ②

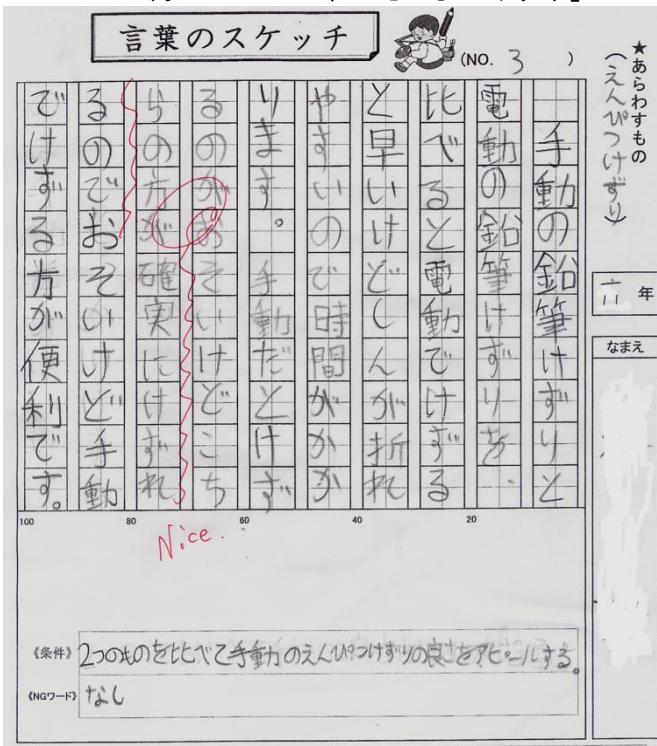
4～6月 「言葉のスケッチ」 共通実践

8 共通実践

4月で確認したことをもとに、100文字「言葉のスケッチ」を実施した。校内研修で、各担任の書く際の「条件の出し方」などを話し合いながら進めてきている。

児童が書いた「言葉のスケッチ」

N03 4月26日 6年「えんぴつけずり」



条件：2つのものを比べて、手動鉛筆削りの良さをアピールする。

N08 5月30日 2年「カラス」



条件：主語・述語「 は、 です。」

Check ②

短期PDCAサイクルによる評価

9 短期サイクルによる評価・改善 → 計画一実践一評価一改善

2カ月が過ぎ、書かれた内容について評価し、よりよい表現につなげるために、今後の指導の手立てを追加することとした。

（2ヶ月の子ども達のテーマ「うめぼし」記述を比較して）

個々に記述内容に工夫が見られるものの、2年～6年の書いた内容を見ると、「うめぼしは赤いです。しわしわがあります。ごはんの上において食べます。とてもおいしいです。わたしは、うめぼしがすき（きらい）です。」と、どの学年も同じ視点で、同じ書きぶりで書かれている。見た目の形や色から入ってしまい、同じ生活体験しかないと考えられる。

今後、語彙力や表現力を豊かにしていくためには、つけたい力に対しての「モデル提示」や「条件の設定」などを計画的、継続的に行っていく必要がある。

Action ②

短期PDCAサイクルによる改善

10 改善

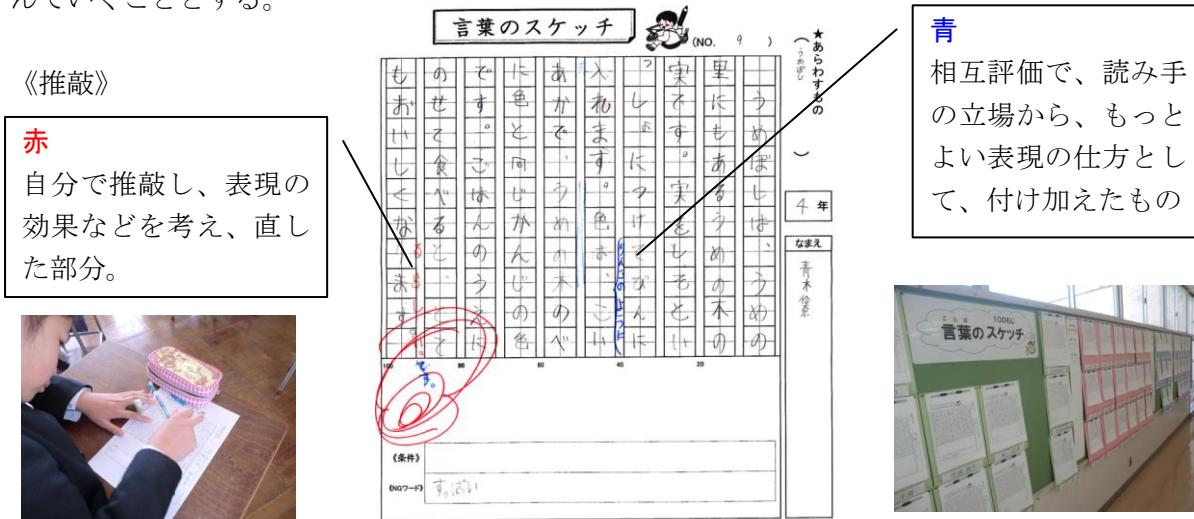
(その1) 校長賞の新設

「言葉のスケッチ」コーナーの興味づけと、豊かな表現の喚起を目的として、校長賞を設けることとする。相手を意識した説得力のある表現、構成を工夫した表現、豊かな情緒表現などに対して、校長先生が校長賞シールを貼る。校長賞が貼られた「言葉のスケッチ」について、各学年で「校長先生が貼った理由・表現の工夫」をみんなで探り、今後の表現活動に生かしていくものとする。



(その2) 推敲の時間の確保

自己の書いたものを推敲する時間として3分設けたが、自己完結で終わっていたため、新たな視点を見つけ、豊かな表現への広がりは十分ではなかった。そこで、推敲の時間を確実に確保するために、2週間単位（1週目 記述の時間 2週目 推敲と交流の時間）として、取り組んでいくこととする。



(その3) 計画的・意図的な・継続的な条件設定

より確かな表現力の育成のため、各学年で、学期ごとの付けたい力を明確にして、書く条件を計画的・意図的・継続的に行っていく。（3～4回、同じ条件で行うと、使える表現となっていく）
（1年生の取り組み例）

(1年生の取り組み例)

月	4月	5月	6月	7月
テーマ	❶「目覚まし時計」	❷「雷」	❸「うめぼし」(話)	❹「燈籠山祭り」
	❷「チューリップ」	❸「雲」	❹「うめぼし」(書)	❺「燈籠山祭り」
	❸「カレーライス」	❹「ショートケーキ」	❻「雨」	❻「プール」
		❷「よもぎ団子」	❹「雨」	
		❷「くちばし」		
条件	・目、耳、鼻、手、舌で 感じたことを書く。 ・テーマの言葉を全く知 らない相手に教える。 ・「何がどうする。」(主 語と述語)の文型で書 く。	・比喻「～のような、～ みたいな」を入れる。 ・テーマの言葉を全く知 らない相手に教える。 ・「何がどうする」(主語 と述語)を入れて話す。 ・「は」「を」「へ」を使 って話す。	・テーマの言葉から受け た印象が最も強い五感 を表す言葉をNGワー ドとする。 ・「何がどうする。」(主 語と述語)の文型で書 く。 ・「は」「を」「へ」を正 しく使って書く。	・テーマに関する意見とそ の理由を「わけ」を表す言 葉を使って書く。 ・「何がどうする。」(主語 と述語)の文型で書く。 ・「は」「を」「へ」を正し く使って書く。 ・句読点を正しく書く。
	【1学期】			
ねらい	①主語と述語の関係に注意して書くことができる。 ②長音や拗音、促音、撥音や「は」「を」「へ」の使い方に気を付けて書くことができる。 ③ひらがなを正しく書くことができる。			